

【参考資料】 ※2019年度の共同研究プロジェクト募集は終了しています。(2018/12/21)

平成 31 (2019) 年度 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
＜舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点＞
共同研究公募要項



1. 趣旨・本公募事業の目的

舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点は、京都造形芸術大学舞台芸術研究センターが、文部科学省より「共同利用・共同研究拠点」の6年間の認定を受け、2013年に設置された研究機関です。その母体となる舞台芸術研究センターは、京都造形芸術大学内にある本格的な劇場施設の「京都芸術劇場」（大劇場：春秋座、小劇場：studio21）を研究施設とし、2001年度より、独自の研究活動を展開してきました。本センターには、「ファクトリー機能」（完成された舞台芸術作品の製作・公開）と「ラボラトリー機能」（将来的な作品の創造や、劇場の新たな社会機能の発見に寄与するような研究・実験）があり、本研究拠点は、そのうちの後者を担う機関です。

本公募事業では、「ラボラトリー機能」に関わる研究プロジェクトを、広く募集します。

下記2点を満たす研究プロジェクトであればさまざまなアプローチからの応募が可能です。

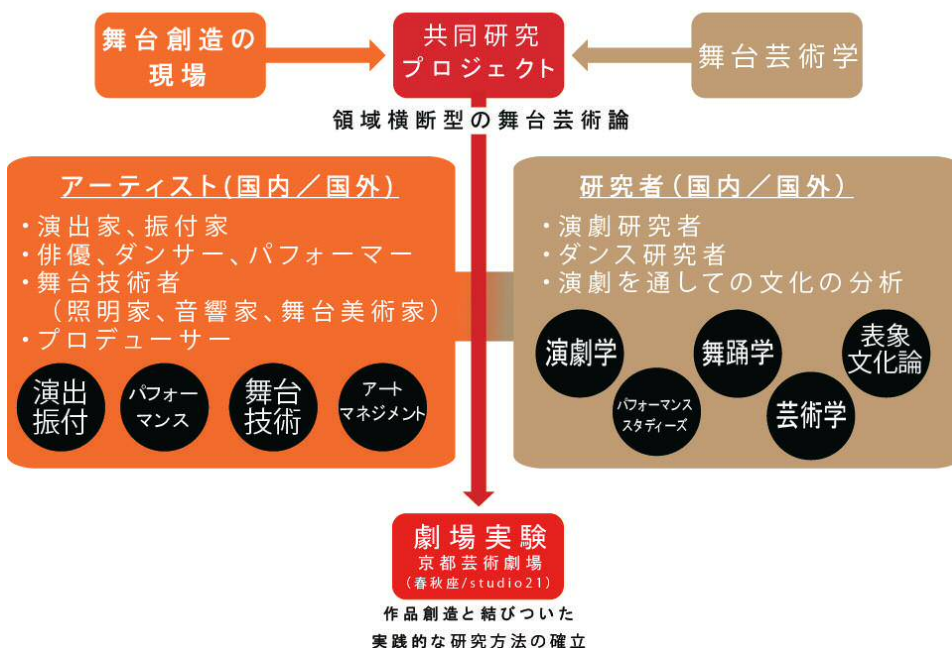
① 研究者と芸術家・舞台技術者等が協働で研究チームを組むこと

② 京都芸術劇場を活用した「劇場実験」を研究プロセスの中心に据えたプロジェクトであること
なお、これに加えて今回は、異なる分野を横断するような性格を備えていることを採択に際しての重要な判断基準としています。その点を踏まえて応募してください。

創造と研究の連携を通じた、新たな舞台芸術のヴィジョンを構想する先進的な研究プロジェクトの、幅広い視点からの応募を期待しています。

⇒本拠点についての詳細は、ウェブページをご覧ください。 www.k-pac.org/kyoten/

本拠点における「ラボラトリー機能」



社会への還元

(期待される成果への展望)

① 「劇場を活用した研究」の確立・発展
→ 領域横断的で実践的な舞台芸術学を創出する。

② 日本の演劇伝統の再検証
→ 「活きた現代の芸術」としての可能性を再発見する。

③ 芸術系大学における「劇場の利用」
→ 「大学の劇場」の社会的役割モデルを発信する。

④ 「創造に結びついた研究」方法の確立・発展
→ 国内のすぐれた舞台芸術作品の創造・発信に貢献する。

2. 公募内容

本研究が想定するプロジェクトは、舞台芸術（演劇、ダンス、伝統芸能、領域横断的パフォーマンス・アーツ等）に関連したものであること、また、その過程で、京都造形芸術大学内の京都芸術劇場（春秋座・studio21）を活用して行われることを原則とします。研究の視点としては、以下のいずれかにあてはまるものであること。

- ① 作品の創作に向けたアーティストと研究者による劇場実験
- ② 研究者を中心とする劇場を利用した研究プロジェクト
- ③ 舞台技術者を中心とした劇場機構の可能性を探究する研究プロジェクト

応募資格

以下のいずれかにあてはまる者（海外の研究者の場合は日本の大学等に所属している事が条件）。

- ① 大学その他の研究機関に所属する研究者、アーティスト、舞台技術者（常勤、非常勤は問わない）
- ② 現在、舞台芸術の現場に関わっているアーティスト・舞台技術者・舞台批評家
- ③ 大学院（海外の大学院を含む）を修了し、博士の学位を得た者、あるいはそれに準ずる研究業績を持つ者
- ④ その他、拠点運営委員会が認める者

※日本学術振興会特別研究員など他機関の専従義務がある研究者は、研究代表者になることはできません。研究分担者、研究協力者としての参加は可能ですが、その場合、専従義務のある機関に本人の責任で届け出を行う必要があります（日本学術振興会特別研究員の場合、PDに限ります。DC1、DC2は研究分担者、研究協力者にもなることはできません）。

研究チームの編成

研究代表者（研究リーダー：1名）

研究の中心となり、研究の遂行に責任を持つ者。

※この公募プロジェクトに係る業務に対して謝礼を受取ることはできません。

研究分担者（コラボレーター／研究グループ：複数名で構成）

共同研究員として研究の中心となり、研究の遂行に責任を持つ者。

※この公募プロジェクトに係る業務に対して謝礼を受取ることはできません。

研究協力者

研究遂行に必要な研究者、アーティスト、舞台技術者。

※この公募プロジェクトに係る業務に対して謝礼を支払うことが可能です。

- ・ 劇場実験等には、それに関する固有の準備などが発生するため、制作者等のマネジメント担当者を必ず1名、分担者もしくは協力者の中においてください（舞台制作の経験がある方が望ましい）。また、研究プロジェクトの軸となる劇場実験に際して必要な舞台技術者についても申請書に具体的にご記入ください。
- ・ 研究チームはできるだけ、複数の大学・研究機関に所属する研究者およびアーティストまたは舞台技術者で構成してください。
- ・ 研究代表者が大学や研究機関等に所属している場合には、その所属機関の了解を得た上で応募してください。また、研究代表者は、申請に際しては、あらかじめ研究分担者に参加の内諾を得てください。

研究期間

2019年4月1日～2020年3月31日

※研究会、劇場実験の実施は出来る限り2020年2月中までに終了することが望ましい。

研究費

年間100万円～250万円上限

※最終的な研究費の額の算定については、本拠点の運営委員会にご一任ください。

- ・ 予算は単年度方式です。
- ・ 予算の執行にあたっては、京都造形芸術大学が定める規定に基づきます。
- ・ 研究費は、共同研究のために支給されます。研究に参加する個人に配分するものではなく、また個別に使用できるものではありません。
- ・ 予算の使途や支出状況は、研究代表者が責任を持って把握してください。なお、採択後は拠点事務局と研究代表者で予算執行の状況を適時、確認します。
- ・ 本事業の助成による成果を発表する場合は、拠点による助成を受けた旨を記載し、活字媒体の場合は成果物を拠点事務局に提出していただきます。

劇場および使用可能な設備

最終的な研究発表の場として、京都造形芸術大学内の京都芸術劇場（春秋座・studio21）を使用させていただきます。劇場の使用スケジュール、使用形態等については採択決定後、当拠点と相談・調整の上、最終的に決定となります。従って、応募に際しては、研究プロジェクトの目的・内容に応じた使用規模を記入してください。また、劇場管理スタッフはこちらで手配しますが、仕込みやオペレーションを行うスタッフは各研究チームで手配ください。

本劇場の特徴

春秋座（大劇場）

観客席・舞台ともに本格的な歌舞伎スタイルを基本としながら、現代劇などの上演にも対応できる設計が特徴です。歌舞伎のための花道、廻り舞台、鳥屋などを設置する一方で、オペラなどのためのオーケストラピットを設け、各種の舞台表現にも活用できる工夫を凝らしています。

studio21（小劇場）

現代演劇やダンス、パフォーマンスなど、さまざまな舞台芸術のための実験空間です。移動可能な照明設備や音響装置を備え、天井グリッドには機材や美術装置を自在に吊ることができます。客席用ひな壇は組替式で、スペースの縦使いや横使いも自由です。

* 施設の詳細については、京都芸術劇場 HP の「劇場案内」の「施設案内」をご覧ください。

⇒URL http://k-pac.org/?page_id=35

研究遂行上の留意点

- ・ 公開の研究会等を有料で行うことはできません。
- ・ 事業終了後の研究成果の出版等による公表については、事前に拠点事務局にご連絡ください。
- ・ 研究遂行上収集した資料（図書、DVD等の視聴覚資料）、機材については、全て本研究拠点に属するものとします。
- ・ 採択された公募研究プロジェクトの参加者は、共同利用・共同研究拠点の図書、資料等を、必要に応じて利用することができます。
- ・ 研究代表者には研究終了後、当該年度の研究成果報告書の提出が義務づけられます（書式・内容等に関しては、採択決定後にお知らせします）。

応募方法

申請書の提出は、当拠点のウェブサイトよりダウンロードした書式を使用し、電子メールに添付して提出してください(郵送の必要はございません)。なお、いったん提出した申請書の差し替えや返却は、原則としてできません。

必要書類：平成31(2019)年度公募申請書(PDFデータ)

応募締切：2018年7月31日(火) 23:59 必着

送信先：kyoten*kuad.kyoto-art.ac.jp 「*」は@に変えて送信してください。

件名：2019年度 共同利用・共同研究拠点 公募プロジェクト

本文：研究課題名、代表者名、連絡先をご明記ください。

選考・審査

選考基準は独創性、実現性を基準として総合的に評価し、京都造形芸術大学および学外の教員、有識者から構成される運営委員会において決定されます。なお、運営委員の構成については共同利用ウェブサイトの「運営組織」をご覧ください。

⇒URL www.k-pac.org/kyoten/organization/

選考結果は2018年9月末までに採否いずれの場合も、応募者(研究代表者)にメールにて通知します。
※採択後は、プロジェクト開始前に、劇場の使用の仕方および使用スケジュールについて、事前打合せの機会を設けます。

※発表前の選考に関するお問合せはご遠慮ください。

問合せ先

本事業に関する問合せは、拠点事務局までお願いします。

京都造形芸術大学 共同利用・共同研究拠点事務局 担当：竹宮

〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山2-116

TEL：075-791-9144(平日10時-17時) / FAX：075-791-9438

E-mail：kyoten@kuad.kyoto-art.ac.jp

共同利用・共同研究拠点 www.k-pac.org/kyoten

京都芸術劇場 <http://k-pac.org/>

本拠点では、2019年度以降も引き続き共同利用・共同研究拠点としての活動を継続してゆく予定であり、2018年度中に文部科学省に拠点認定の申請を行うことにしています。

＜舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点＞
共同研究プロジェクトの公募事業

平成 31（2019）年度 公募申請書記入要項

1. 申請書は、当拠点のウェブサイトからダウンロードしたものをご使用ください。
2. 年齢は、2018 年 4 月 1 日時点での年齢を記入してください。
3. 研究代表者が博士号取得者の場合、受領大学および取得年月日も併せて記してください（見込みの場合はその旨記してください）。
4. 「研究目的」および「研究計画・方法」は、当事業の目的や趣旨を十分反映して、複数の研究者・アーティスト・舞台技術者が共同して研究を行い、その結果としてどのような成果をあげようとしているのかを明確に記入してください。「研究計画」は、舞台芸術研究センターの劇場設備を利用したものとなるようにしてください。
5. 「劇場実験の目的・概要」は、各項目別に現時点での希望を記入してください（図などでの説明も可能です）。
6. 予算の費目は、設備備品費、消耗品費、国内旅費、外国旅費、外国人等招聘旅費、諸謝金、通信運搬費、印刷製本費、借損料、雑役務費、その他です。
7. 予算の積算については、共同研究の遂行に直接的に必要となるものであることに留意してください。
8. 研究補助者（アルバイト）は、雑役務費に計上してください。謝金は研究会等に講師を招いた場合の講演謝礼や、通訳・翻訳等に対する謝金です。
9. 消耗品は取得価格が 10 万円未満のものです。研究に直接的に必要とされるものに限られます。
10. 研究費使途は当該年度の事業に限られます。
11. 記入内容に不備があった場合でも、そのまま審査に付しますので、記入にあたっては誤りのないよう十分注意してください。